

令和4年度の水道事業は、給水人口は減少していますが、給水戸数にわずかながら伸びがみられました。また、老朽化した配水管からの漏水等により有収率(※1)は減少となったものの、事業収支は黒字となりました。令和4年度の実業としては、市街地(北6丁目通等)の老朽化した配水管の改修工事を行いました。また、浄水場施設についても配水池の耐震補強工事などを行いました。また、町民のみなさんへ安全・安心な水道水を安定的に供給していくため、引き続き計画的な更新を行なっていきます。

水道事業は「地方公営企業」(※2)という企業形態で経営され、事業に必要な経費は水道料金でまかなわれています。事業運営の健全維持のため、必要な工事量などを見極め、事業収支のバランスや財源の確保など、効率的な事業運営と給水サービスの向上に努めていきます。

(※1) 有収率～浄水場から出た水の量(配水量)と料金として収入のあった水の量(給水量)との比率。100%に近いほど、効率の良い経営が行われている(給水量÷配水量×100)。

(※2) 地方公営企業～町の一般会計とは区別した独立採算性に基づく事業。

令和4年度決算額

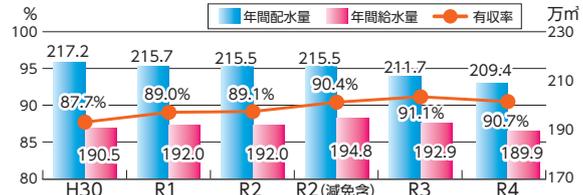
経営成績である損益計算書の収益は、4億5,471万円(前年度比359万円減)になりました。そのうち水道料金収入については374万円の減収となっています。一方、費用については、4億3,507万円(前年度比307万円増)となっており、施設維持管理費など営業費用で4億1,112万円、償還金利息など営業外費用で2,395万円となりました。これにより令和4年度の純利益は、1,964万円となりました。

資本的収支では、支出については老朽化した配水管整備や設備の更新工事などに係る建設改良費で3億9,479万円、企業債償還金と合わせ計5億1,798万円となり、収支で3億9,858万円の不足が生じることから、損益勘定留保資金(※3)等で補てんしました。

(※3) 損益勘定留保資金～経常費用のなかで現金の支払いが伴わない経費(減価償却費等)。

配水量・給水量・有収率の推移 (m³)

R 4	
年間配水量	2,093,592
年間給水量	1,899,232
有収率	90.7%



収益的収支の状況 (1年間の経営活動に伴い発生する収支)

	主な予算科目	決算額	対前年度比伸率
水道事業収益	給水収益	4億1,936万円	△0.9%
	受託工事収益	296万円	△14.5%
	その他営業収益	1,195万円	5.7%
	営業外収益	2,044万円	0.1%
	収益合計	4億5,471万円	△0.8%
水道事業費用	人件費	5,823万円	11.6%
	物件費	1億2,644万円	14.7%
	受託工事費	296万円	△14.5%
	減価償却費	2億1,969万円	5.8%
	資産減耗費	380万円	△88.6%
	支払利息	2,381万円	△5.5%
	その他費用	14万円	58.2%
	費用合計	4億3,507万円	0.7%
収益的収支差引		1,964万円	

資本的収支の状況 (資産取得に伴い発生する収支)

	主な予算科目	決算額	対前年度比伸率
収入	企業債	1億1,940万円	△5.9%
	収入合計	1億1,940万円	△5.9%
支出	建設改良費	3億9,479万円	1.4%
	企業債償還金	1億2,319万円	4.6%
	費用合計	5億1,798万円	2.2%
資本的収支差引		△3億9,858万円	

業務量および企業債(※4)の年度末残高

年度	年度末給水戸数	年度末給水人口	年度末企業債残高
R4	10,161戸	19,419人	21億21万円

(※4) 企業債～国や地方公共団体金融機構等からの借金。
※水道施設等の整備を行うための費用は莫大であり、水道料金だけでは足りないため、企業債で補っています。また、収益的収支で得た利益は、これらの借金の返済(償還)に充てられます。

町営牧場は、町の基幹産業である酪農畜産経営の生産コスト低減と労働力軽減などを目的として昭和38年に設置されました。昭和43年には農業構造改善事業で開陽台牧場、昭和56年には国営事業で俵橋牧場を開設し、主に人工授精牛の夏季における預託放牧を行なっています。

受入頭数は、多頭飼育による酪農経営の大型化により近年900頭ほどが入牧しています。

平成27年度から道営公共牧場整備事業で開陽台牧場の再整備を実施し、令和3年度で草地および衛生管理施設等、一定の整備を終了しましたが、引き続き公共牧場としての役割を十分に発揮させ、預託農家の要望に応えるためには、更なる運営方法の工夫・検討が必要であると考えています。

また、今年度も口蹄疫など海外悪性伝染病の侵入防止対策、家畜伝染病の発生予防とまん延防止のため、北海道根室家畜保健衛生所等の指導の下に予防検査を実施し、適切な牧野衛生と事故のない牧場運営に努めます。

令和4年度決算額

歳入		歳出	
放牧料	3,671万円	管理費	126万円
入牧手数料	57万円	事業費	4,097万円
財産運用収入	553万円	公債費	1,392万円
繰入金	1,331万円		
諸収入	3万円		
合計	5,615万円	合計	5,615万円

【主な歳出の内訳】

- ◆管理費……消費税、牧場運営委員会などに係る諸経費
- ◆事業費……草地の管理経費など
- ◆公債費……借入金の元金および利子の償還金